

カリマンタン国境巨大オイルパームプランテーションについて

インドネシアにとっては外貨獲得に有望なパーム油産業。2004年時点で、総面積 530 万 ha にわたって栽培され、粗パーム油 1,140 万トンを生産し、輸出額 44 億 3,000 万米ドル、政府収入 4,230 万米ドルと、その経済効果は大きい。

今年 1 月インドネシア農業相は、世界および国内のバイオ燃料需要に応えるべく今後 5 年以内にインドネシア国内に新たに 300 万 ha のオイルパームプランテーションを開発すると発表した。このうちの半分以上の 180 万 ha は、カリマンタン島（ボルネオ島）のマレーシアとの国境沿いを開発する計画だ。

インドネシアは、10 年以内にマレーシアを抜いて世界一のパーム油生産国になることを目指している。この開発事業には、資金調達について国内のグループ企業や中国開発銀行などの間で覚書が結ばれている。

カリマンタン島は東南アジアで唯一残る広大な森林地域を有する。オランウータン、アジアゾウ、スマトラサイなどが生息し、1994～2004 年の 10 年間に新たに固有種が 361 も発見されている。当初計画では、三つの国立公園内の原生林を破壊し、オイルパームに不向きな山地を切り開き、多くの先住民の慣習的な権利を侵すものになる。

2005 年 7 月にこの計画が発表されて以来、多くの市民による反対運動やロビー活動、国内メディアおよび外国からの圧力により、政府は計画の変更を余儀なくされた。ユドヨノ大統領は、国境開発事業自体は全般的に支持する一方で環境面の課題の存在を認め、森林相は、オイルパームの植栽のために保護森林を引き渡さないことを宣言し、農業相は、国境地域の 90% 以上がオイルパームプランテーションに不向きであると認めた。2006 年 4 月の状況としては、ブディオノ経済担当調整相が、当初の開発計画の是非を検討しているところだという。

しかし、これら大臣の発言はオイルパームプランテーションの開発中止を保証するものではない。国境地域にはパーム油会社がすでに進出している。国家開発計画庁は「国境地域」の定義を 5～10km から 100km に変更し、国境線の「際」の開発を禁止する一方で、300 万 ha がオイルパームプランテーション開発に適切であると評価した。さらに、拡張後の地域は先住民が住む森林地帯であるにもかかわらず、社会的要素は勘案されていない。政府の開発計画を知らされている先住民は少なく、また知らされている場合は強い反対を示している。開発に伴う道路建設そのものによって山が切り開かれるほか、これまで人の手が入っていない地域で不法伐採、不法採鉱、森林転換の新たな波が起こる可能性もある。

インドネシア国内には、国際的な環境・社会基準への合致が第三者によって検証されているパーム油は現時点では生産されておらず、持続可能な原料調達の面でも課題を残している。

(翻訳・まとめ:地球・人間環境フォーラム)

”The Kalimantan Border Oil Palm Mega-project”, AIDEnvironment, April 2006

Comissioned by Milieudedefensie – Friends of the Earth Netherlands and the Swedish Society for Nature Conservation (SSNC) http://www.foe.co.uk/resource/reports/palm_oil_mega_project.pdf